

医療情報研究室

室長 岡垣篤彦

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、あるいは SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な3つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のための IT 基盤構築事業」、京都大学が主導する「次世代医療 ICT ワーキンググループ事業-千年カルテプロジェクト」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」に参加した。

平成 23 年年末に更新した電子カルテシステムは、システムの応用範囲が広くなり、データ利用についても多彩な可能性が考えられる。このシステムを用いて岡垣室長を中心に開発してきたカード型カルテシステムの発展をめざすと同時に経営分析的な視点を新たに研究対象に加えている。平成 26 年 1 月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度についていける国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。平成 25 年度は災害医療研究室と共同で厚労省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対する DMAT による急性期医療対応に関する研究」において GIS の技術を用いた DMAT 被災地派遣支援ソフトウェアの開発を行い平成 26 年度に報告書を上梓したが、国会での来るべき甚大災害に対する医療支援に関する議論に対しデータの供給を行なうなど国内の甚大災害対策に貢献した。引き続き災害関連の研究として平成 27 年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応した DMAT の戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を 2 年間行なった。

【2015 年度 研究発表業績】

A-3

岡垣篤彦、定光大海：GIS 連携アプリケーションの作成による南海トラフ巨大地震の医療機関の被害想定作成および DMAT による急性期医療対応計画策定「医療情報学」p3-17、Vol35 (1)、2015

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：救命救急外来用電子カルテ 1 年間の運用状況の分析「医療情報」p219-227、Vol35 (5)、2015

A-5

厚労省科学研究報告書

岡垣篤彦 (研究分担者) : 直下型地震における医療機関被災の定量的評価 直下型地震に対応した DMAT の戦略的医労活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究。平成 26 年度総括研究報告 研究代表者 定光大海 p21-26

B-1

Okagaki A : Making FileMaker application for DMAT(Disaster Medical Assistance Team) rescue plan in the acute disaster phase of expected Nankai Trough megathrust earthquake Medical IT Professionals July 22 2015 FileMaker Developer Conference Cosmopolitan Hotel Las Vegas Nevada USA

B-4

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海 : 救命救急外来用電子カルテ 1 年間の運用状況の分析。第 19 回医療情報学会春季学術大会、仙台市、2015 年 6 月 13 日

岡垣篤彦、定光大海 : 首都直下型地震における医療機関の被災予測。第 17 回日本災害情報学会大会、甲府市、2015 年 10 月 25 日

岡垣篤彦、上平朝子、谷口美由紀、多和昭雄 : 多剤耐性菌管理ソフトウェアの作成による耐性菌感染対策の実施とその効果。第 35 回医療情報学連合大会、沖縄県宜野湾市、2015 年 11 月 4 日

B-5

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海 : 救命救急外来用電子カルテ～大阪医療センターのとりくみ～。国立病院学会救命センター長会議、札幌市、2015 年 10 月 1 日

岡垣篤彦 : 電子カルテのユーザーインターフェース。中部医療情報技師会研究会、名古屋市、2016 年 2 月 20 日